

目標は 90 才まで現役

F47 守田賢一

昭和 47 年に計測工学科を卒業しました。

学生時代は試験前にはさすがに少し勉強しましたが、普段は殆ど遊んでいました。

我々の頃は大学へ入れば親は何も言わないし、世間でも一応大人として扱ってくれてバイトの口も家庭教師から肉体労働まで幅広く選択できたし、就職も名工大であれば大企業の何処かへ行けるし、ということで、今から思うと、とても呑気なパラダイス生活を送っておりました。

三食昼寝付き(?)の親元を離れる気はさらさら無かったので、就職も地元の大企業に決めました。進路指導担当の先生から「昨年そこへ行った子は優秀だったよ」と嫌味を言われたことを覚えています(笑)。

会社では技術開発部に配属され、面白そうだからと希望していた産業用ロボット(黎明期でした)のコンピュータ制御を担当しました。そして私の机の前の先輩に誘われて軟式野球部に入ることにしました。

軟式野球部は工場付属のグラウンドを占有して真夏も真冬も 1 年中、毎日昼休みに練習がありました。シーズン中の日曜日はほぼ試合。勝ち進んで県大会になると普通の日でも試合があり、今では信じられませんが、社用外出で試合に行き、そのまま会社へは不帰。打ち上げの宴会をやって酔っ払い運転の車で帰宅、という調子でした。

子供も 3 人授かって、給料泥棒のような楽しい生活を 10 年送っておりました。が、30 歳過ぎてさすがに将来を考えるようになりました。というのは「どうも技術者には向いてないな」と思い始めたからです。ちょうどその頃、会社への行き帰りの車の中から見えた「特許事務所」の看板に惹かれました。高校時代からどちらかというと文系の方が得意で、理系にしたのは就職に困らない、という浅はかな理由だったからです。

そこで、34 歳で一念発起、看板を出していた件の特許事務所へ転職しました。特許事務所を開くには弁理士資格が必要なのですが、まあ 2・3 年我慢して勉強すれば資格も取れるだろうと見込んでのことでした。

特許事務所での仕事は特許明細書を作成することが主で、文系と理系のハザマのような仕事なので私にはぴったりで、転職して良かったと思いました。ところが、給料は大幅に減ったので 3 人の子持ちとなった身としては仕事を頑張って元の給料に戻す必要がありました。まあ試験に受かればそれも解消するだろうと考えてはいましたが。

ところが弁理士試験にはちっとも合格しません。その頃の試験合格率は 3% を切っていたので(転職して知ったのですが)難しいといえばそうなのですが、今から思うと勉強方法にも問題があったのでしょう。

ようやく試験に合格したのは、永久に合格しなくてもそれはそれで良い人生だったな、と悟りの境地を開きつつあった(?) 47 歳の時でした。合格して一番嬉しかったのは、給料うんぬんよりも、

自分の名前で代理できるということでした。それまでは、どんなに一生懸命特許の明細書を書いても自分の名前は何処にも載りませんでしたので。

さて、晴れて自分の事務所を持ったのですが、これまでの事務所経営を振り返ると、順風満帆ではありませんでした。しかしどんな時でも、自分で選んだ道だから、と開き直りに似た気持ちでやってきました。つくづく思うのは、儲かる仕事はあまり面白くなく、反対に面白い仕事はあまり儲かりません。

歳はとると、世の中は変わっていくので、仕事の内容も変えていかないといけません。もうここまで来たら、水鳥のように水面下で脚を必死に掻いて、(途中で死ななければ)90歳まで現役を貫きたいと思っています。そのために次の仕事の形態をどうしていくのか、74歳にして試行錯誤の毎日です。私が好きなタイ、もう少し広げて東南アジア、そして知財(知的財産)。そのためにどのようなスキルを身につけ、どのような人的関係を構築する必要があるか???ひょっとしてこれが若さを保つ秘訣かもしれません。ありがたいことです(合掌)。